

発生予察による病害虫防除

病害虫防除所

農作物を安定的に生産するため、病害虫防除を効果的かつ効率的に行うため、病害虫の発生動向を調査し、防除を要する病害虫や防除対策に関する情報を提供しています。

主な発生調査の内容

- ・定点圃場調査
- ・予察灯調査
- ・トラップ調査
- ・果樹カメムシ類越冬調査
- ・麦赤かび病孢子飛散調査
- ・広域調査 など



予察灯



性フェロモン
トラップ



見取り調査

調査結果等に基づき情報発出

情報の種類

- 発生予報 : 毎月月末に発表
- 警報 : 重要病害虫の大発生を予想
- 注意報 : 重要病害虫の多発を予想
- 特殊報 : 新規病害虫の発生を確認
- 技術情報 : 発生予報を補完

情報の内容や調査結果は愛媛県病害虫防除所
ホームページからご覧になれます。

令和6年は28年ぶりに果樹カメムシ類の警報を発表



防除所では、

生産者からの依頼による病害虫診断に加え、JAの生産部会等で防除対策の講習会を行ったりしています。

県下で問題となっている病害虫

病害虫防除所

今、県下で問題となっているものや、今後問題となりそうな病害虫について紹介します。

稲こうじ病

豊年病と言われ昔からみられるが、近年、発生が増加している。被害粒が混入すると品質低下を招き大きな問題となる。



被害粒の状況

イネカメムシ

発生地や発生量が増加しており、県下全域で見られる。通常の斑点米を発生させるほか、出穂期の加害では、不稔が生じ減収する。



左：幼虫 右：成虫

トマト黄化病

中～下位葉が黄化し、苦土欠乏症に類似した症状を示す。果実は症状を示さないが、生育が抑制される。コナジラミ類で媒介される。



中位葉の黄化

媒介虫コナジラミ類

ミナミトゲヘリカメムシ

南方系の虫で、R5年に県内の柑橘で初確認された。柑橘に続き、R6年には柿、キウイフルーツでも加害が確認されている。



成虫

加害による落果

サツマイモ基腐病

R3年に県内で初確認されて以降、発生は認められなかったが、R6年に新たに2か所で確認された。茎葉の枯死、イモの腐敗が起り大きな被害となる。



茎に発生した病斑



塊根の腐敗